

宇都宮市立清原北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」や「家で、学校の授業の復習をしている」の項目では、肯定割合が市・県の割合より高く、家庭学習の充実がうかがえる。今後も学習内容の定着や児童の学習意欲向上を図るため、家庭学習を推進していく。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の項目では、肯定割合が100%と市・県の割合より高いことから、学びに向かう意欲が高いと言える。

○「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」の項目では、肯定割合が100%と市・県の割合より高く、互いを思い合って生活をしていることが分かる。引き続き、全教育活動を通して、誰に対しても、相手の気持ちを考えながら接することの大切さについて指導を続けていく。

●「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目では、「はい」の割合と「どちらかといえば、いいえ」の割合が35%と同じ値で一番高い。話し合うことで自分の考えがよりよいものに変容していることに気付かせるなど、話し合いを通じて学びを深め、広げていけるよう指導を行っていく。

●「自分の行動や発言に自信をもっている」の項目では、肯定割合が市・県の割合より高いが「どちらかといえば、いいえ」の割合も高い。できたこと、頑張ったことに対しては担任はもとより、学級・全校で称賛する場を設け、一人一人の言動に自信がもてるような指導を継続していく。